

「2025年度決算IR説明会」主な質疑応答

<業績予想からの変動要因>

Q：業績予想からの差異についてセグメント毎の背景は。

A：大きな要因は、数値自体が開示数か月前のものにならざるを得なかったことにある。セグメント別には、EPでは調達面での原価低減策などに取り組んだ結果、最終的な仕上がりが高くなった。デリバティブ評価益などの一過性要因もある。PGは金利上昇を受け退職給付の割引率を見直したことによる費用減に加えて、関電工の業績影響もあった。

<アライアンスの検討状況>

Q：アライアンスの検討状況について言える範囲でアップデートはあるか。

A：相手先や市場への影響もあるので予断を与えることは言えない。いたずらに期間かけるつもりはないが、しっかりした姿を作っていく必要があり、それなりの時間がかかると思われる。我々が重視しているのは経済事業と廃炉貫徹の両立であり、GX・DXを進める点も基本スピリットとして持っており、それに資するアライアンスを検討していく。

<五次総特の進捗>

Q：アライアンスを除く五次総特の取り組みについて進捗は。

A：まず廃炉体制をしっかりと構築するべく検討している。また、FCFは早期黒字化を目指しており、長期的にはお客さま参加型の取り組みやアセットライト・資産回転型の事業を、個別具体的なプロジェクトに応じて対応していく。

<中東情勢の競争環境への影響>

Q：中東情勢によるEPの競争環境への影響は。

A：ウクライナ危機時の経験を生かして契約見直しを進めてきたので、お客さまと一緒に取り組むことができる地合いになってきたと考えている。

<KKの収支改善効果>

Q：試運転分は4Qの利益押上げになったか。また、収支改善効果1,000億円規模という前提は現状でも変わらないのか。

A：中東情勢による市場価格影響は3月時点ではそれほどなかったため、再稼働による影響は、限定的と捉えている。また、電源差替効果の1,000億円という規模感は現時点では変わらない。

<HDの業績予想との差異要因>

Q：HDセグメントの業績予想との差異要因は。

A：HDの上昇要因は子会社利益の増加が大きい。加えて、特別負担金の減少や原子力の修繕費等の繰り延べなどもあった。

<26年度の期ずれ影響について>

Q：JERAとのPPA更改を踏まえて期ずれ影響はどうか。

A：料金への反映ラグを短くして収支影響を減らしていきたい。

<東証要請への対応・開示の改善>

Q：連結ベースのROICの現状とセグメント別の問題点、改善に向けた取り組みと進捗やFCFのセグメント別の状況と方針を示すことを検討していただきたい。

A：資本効率を上げていくことは重要と認識している。投資に必要なお金を集めることと、需要への対応について、五次総特にも織り込んでいる取り組みの解像度を上げていきたい。

以 上